

—幡陽小学校 3～4 年生社会科—

「かかわる道具とくらし」の出前授業



2月20日(月)3～4校時の2時間扱いで、標記の出前授業を市史編さん室田村と吉本が幡陽小へお伺いして実施した。中浜小2階の「歴史資料保存スペース」から「羅針盤」「天秤」「升」「洗濯板」「火熨斗」「田植え網」などを持っていき、それを児童たちの手に実際に触れさせて、これをどのようにして使用するのかを考えさせていった。教育界でもデジタル化が叫ばれる昨今であるが、何と云っても実物に勝る教材はない。社会科教材はまず実物で勝負することが肝要。児童の食いつきがまるで違う。

(1) 農業についての道具を学習

授業に参加した3～4年生、計3名に朝ご飯は「パンか？ ごはんか？」と聞くと、3人ともご飯ということ。では、白米はどのように生産されているのか。または、されてきたのか。この点をしっかりと学習していった。

田植え → 稲刈り → 脱穀（稲穂から粃をとること）→・・・

※こきバシ、千歯こき、足踏み脱穀機などを使用

・・・→粃 米 → 玄 米 → 白 米

※木摺臼 ※踏み臼

粃と玄米を分離 糠と白米を分離

米一粒には「七人の神様が宿る」と言われる。水・日・風・土・道具・田の神々。幼少の頃、農業で米作りを営む母方の祖父に茶碗に米が残っていたら、それを注意され、一粒も残さず大切に食事するよう叱られたことがある。私たちは、いつのまにか贅沢に慣れてしまい、食事できることに感謝する気持ちを忘れがちではないだろうか。

(2) 授業のねらいは？

“昔の生活”と“今の生活”ではどちらが幸せか”という内容。これについては、時間



↑ 民具の実物教材を実際に手で触り、道具の用途を考える幡陽小学校児童たち。説明するのは、生涯学習課市史編さん室・吉本工心職員。

が十分に取れず、次の社会科の時間に社会科担当の小川先生に引き継ぐこととなった。確かに便利にはなった。メール・スマホ・道路の高速化等々。しかしながらこれが人間の幸せと直接つながっているのだろうか。友だちに手紙を書くことや、便りを待つ時間。時間をかけてゆっくりと旅する旅情。このようなゆったりとした時間の流れの中で物事を「待つ楽しみ」や「心の交流」が忘れ去られ、あまりにも世の中の動きが性急に進んでいないだろうか。そんなことを考える自分は、還暦も近くなり、歳を取ったのだろうか。

「市史編さん便り」のコーナーにつながっています！

.....「QRコード」

「市史編さん便り」のバックナンバーを確認することができます。携帯のカメラをかざすとコーナーにつながります。

是非、ご活用ください。

土佐清水市史編さん便り



◎28日は足摺岬小で社会科&総合学習の出前講座を行います。
他の学校でも、出前講座や職員の校内研修に市史編さん室を遠慮なくお申し付けください。